

令和4年度第7回オンライン自主研修 感想・意見

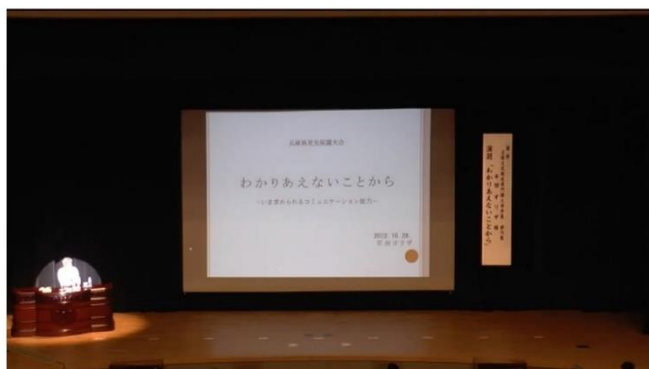
令和4年度 東灘区保護司会 第7回オンライン自主研修のご案内

【教材】

第70回兵庫県更生保護大会（朝来市文化会館）R4. 10. 28

講演「わかりあえないことから」

講師 芸術文化観光専門職大学学長・劇作家 平田オリザ様



URLは

令和5年1月18日(水) 8:00東灘区保護司会広報担当

「第7回オンライン自主研修のご案内」メールをご確認下さい。

【自主研修の要領】

ご覧になった感想、意見を100字程度にまとめて

東灘区保護司会広報部宛

「所属支部」「氏名」「視聴月日」を記入してメールください。(支部長による代行メールでも結構です)

送付期限は令和5年2月15日(水)です。(期限遵守と100字程度の感想・意見は必須です)

① コミュニケーション力の話のなかで、その国の文化によって望ましいコミュニケーションは異なることの一例として、外国でエレベーターに乗り合わせた時のお互いの反応の違いの話がありました。米国では、お互いに「ハイ」と言って笑顔を見せますが、イギリスの上流階級では、人に紹介される以外は自分から話しかけないそうです。私が、米国を訪れた時も同じ体験をしました。知人に理由を聞くと、「あなたにとって私は敵ではないことをいち早く示すため」と教えてくれました。

この講演を聴いて、保護司として「社会的弱者の気持ちをくみ取る能力」、「相手の文脈をくみ取る能力」を高め、「話しやすい」、「質問を受けやすい」環境を作って面談を行うことが重要だと感じました。

② 「コミュニケーションのうまさ」ではなく、「豊かさ」について学ぶことができた。AIなどのプログラムや機械では、対応できない「人と人」のコミュニケーションの難しさについて、改めて教えられた。

「社会的弱者は、コンテキストでしか話さない。」ということを繰り返し語っておられた。社会的弱者の方々とのコミュニケーションは、確かにわかりにくく、伝わりにくい。それゆえに、誤解されたり、コミュニケーションすることを諦められている事が多いように感じる。そのような、誰にも理解し受け入れられなかったり、虐げられたことへの寂しさや悔しさが、犯罪への入り口となった人もいるかもしれないと感じた。

提唱されていた「社会的弱者のコンテキストを汲み取る能力を向上する」というのは、とても良いことだと感じています。また、同時にレベルの高いことを要求されているようにも感じた。後半でおっしゃっていた「コミュニケーションデザイン（話しかけやすい環境づくり）」というのは、そこまで注力しておりませんでしたので、意識してみたいと思います。

今回も、多くの新しい発見と気づきがたくさんありました。研修の機会を与えてくださり嬉しく思います。

③ コミュニケーションはこれだけ奥深くて広いものかということを感じた。

「コミュニケーションをデザインする」という件はとても印象的で、我々も、「どうすればもっと対象者が話しやすくなるか？」ということをもっと多角的に考えていく必要がある。

④ コミュニケーションについて多くを学びました。

○場の設定として、列車で旅行中のA、Bさんのボックス席にCさんが合席する。AさんがGさんに「旅行ですか？」と声かける。そのときのCさんは？

AさんCさんの振る舞いは人種、民族、文化、年齢などによって異なる。この状況を「コンテキスト（文脈）のずれ」という。これに気付かないまま会話を進めるとコミュニケーション不全（顧客からのクレームなど）を起こす。

○子どもが「今日宿題やっ行って行かなかったけど、先生に怒られなかったよ！」と嬉しそうに走って帰ってきた。これは実は「先生が好き」を伝えたかったのです。論理的に話すことのできない子どものコンテキストを理解する能力こそが、リーダー（親）に求められている。

○さらに、話しかけやすい場、質問しやすい場といったコミュニケーションデザイン（環境、空間、雰囲気）も考えなければならない。

○コミュニケーションはまず他者のコンテキストを理解することが重要である。このことは保護司の対象者とのコミュニケーションすべてに通じるものである。